

た同大人間科学部コミュニケーション学科4年の土子健太郎さん(21)は「自分たちの活動が学外から認められたことはとても励みになる。いつまでも活動が続くよう今後も努力したい」と喜びを語った。

通してボランティアに対する意識が変わった。相手を「知る大切さ」を学んだ」と話す。同団体の顧問を務める事務職員の関敦夫さん(50)は「ただ手伝うのではなく、学生が主体的に考え、行動して、学びを得ることができる活動であることを大切にして」と話した。同団体は今年新たに、東日本大震災の復興支援の経

験を生かして、水戸市教育委員会が主催する「防災リーダー育成」コースの授業に協力する。(佐藤珠貴)

来月1日、大洗にクルーズ客船入港 町、船内見学者募る 7月1日に大洗町の茨城港大洗港区第4埠頭にクルーズ客船「ばしふいっくびいなす」が入港するのに合

わせ、町は船内見学会の参加者を募集している。見学会は同日午前10時11時、停泊中の船内を見ることのできる。参加無料で、定員は60人(応募多数の場合抽選)。このほか、第4埠頭では船が接岸する午前8時〜午後5時に、セレモニーや香港歓迎イベントなどを開催する。見学会の希望者は、はがきに参加者の氏名(振り仮

泥にまみれ田植え体験

水戸市大野小 農業の大切さ学ぶ

水戸市大野の水田で12日、市立大野小5年生の7人が田植えを体験した。水稲の苗を手に、素足で水田に入った児童らは「気持ちいい」「足が抜けない」などと泥の感触を楽しみながら、農業の大切さや地域資源の重要性などについて学んだ。

児童たちは水田内に糸で引かれた線に沿い、丁寧に苗を植え付けていた。秋には収穫や脱穀なども行い、実際に育てたコメの試食も行う予定。

田植え体験は、同校による総合学習の一環。地元農家の協力を受け、コメ作りをテーマに「田んぼの学校」として田植えや稲刈り体験を実施している。この日、

岡野美優さん(11)は「真つすべに苗を植えることが難しく、少し曲がってしまった」と感想。また、伊藤志穂さん(10)は「足が抜けてなくて大変だったけど、収穫が楽しみ」と、実りの秋に思いをはせた。

(前島智仁)



上大野小の児童が参加した「田んぼの学校」＝水戸市大野

映画「それぞれのヒーローたち」

全国高校軟式野球大会で準優勝した福島県の高校球児の青春と東日本大震災後の人生を描いた映画「それぞれのヒーローたち」の無料鑑賞会が24日午後1時半から、水戸市文京2丁目の茨城大ライブラリーホールで開

無料鑑賞会 24日茨城大で 一スと硬式野球部の内野手が主人公。東日本大震災後に味わった2人の苦悩を、当時軟式野球部の女子マネジャーの視点で描く。鑑賞会終了後、軟式野球部マネジャーで映画の原作・企画をした高梨由美さんのトークがある。

は賛成12、反対1だった。同議会事務局によると、議員定数は2011年に15から13に2人減らしている。

大洗町議員の定数1減12に

議会が改正案可決

大洗町議会は定例会初日の17日、議員定数を13から12に削減する条例改正を賛成多数で可決した。10月20日投票で実施される町議選から適用される。

定数削減案は勝村勝一氏に、ほか2人の町議が賛同し、提案された。勝村氏は提案理由について「自治体を取り巻く社会経済情勢に鑑み」と述べた。採決で

は賛成12、反対1だった。同議会事務局によると、議員定数は2011年に15から13に2人減らしている。

社会貢献活動を推進 県社協などに支援金

県遊技業協組

県遊技業協同組合(平文暉朗理事長)の福祉基金贈呈式が13日、水戸市三の丸の水戸京成ホテルで開かれ、茨城新聞文化福祉事業団と県社会福祉協議会にそれぞれ支援金が贈られ



た。福祉基金の贈呈は、同組合の社会貢献活動の一環として、通常総会に先立って毎年実施している。平文理事長は「青少年の健全育成を目的に県選抜中学校野球大会に協賛するなど、地域に根差した社会貢

献活動を今後も積極的に推進していきたい」と話し、両団体の代表に支援金を手渡した。2団体の代表に福祉基金を手渡した県遊技業協同組合の平文暉朗理事長(中央)＝水戸市三の丸の水戸京成ホテル

■水戸支社
水戸市
那珂市
茨城町
大洗町
☎029(239)3010
ファクス
(301)0361

■ひたちなか支局
ひたちなか市
東海村
☎029(273)1719
ファクス
(273)3979

■笠間支局
笠間市
城里町
☎0296(72)0004
ファクス(73)0163

■茨城新聞みと・まち・情報館
☎029(306)9500
ファクス
029(224)1123

◇身近な情報をお寄せください

<購読申し込み>
フリーダイヤル
(0120)029218



お肉を贈呈したユーハイムの湯田圭一社長(左)とストアー谷津の谷津泰宏社長(右)から豚肉を受け取る細川淳矢主将＝城里町小勝

の一環。同プロジェクトは水戸ホーリーホックが公式戦で、勝利した場合1回分の食肉を提供するというもので、今年5月1日に契約を結んだ。今回は締結後初の提供となった。細川淳矢主将は「頂いたお肉でしっかりとスタミナを付けて戦い抜きたい」と意気込んだ。湯田社長は「住まいの提供や相談を通して以前からホーリーホックをサポートしていた。今後も選手の衣・食・住を支援していきたい」と述べた。